わんぱくキャンプ（2015 年 8 月 17日～18日）御参加の皆様へ

先日はわんぱくキャンプにご参加いただきまして、ありがとうございました。

キャンプを通して思ったことは、「やりきった感と、やり残した感」の大切さです。TOECのキャンプの特色「フリーキャンプ」スタイルは、予めスタッフが用意した時間割もプログラムの流れもなく、子ども達とのミーティングでその時やりたいと思ったモノを出し合い、やっていくことです。今回はドロンコ、生き物探し、秘密基地づくり、ごはんづくり、夜の探検・・・などがやりたいこととして出てきました。泥を触ることに抵抗がある子ももちろんいましたが、気付けば、全身泥まみれで走り回ったり、水たまりにダイビングしたりしていました。秘密基地づくりは林の中でメンバーと試行錯誤を繰り返しながらひたすら作り続けていました。また、生き物探しのメンバーもアミを持ち、虫かごを首にひっかけて、農園中を行ったり来たり、黙々と獲物を追いかけていました。夕方頃、遊び疲れた泥まみれの子らはたき火を囲んでいました。遊び切ったその表情はとてもすっきりとしたものでした。夢中になって自ら主体となって遊んだからこそ味わえる感動。その積み重ねが自己肯定感や自信に繋がると私は思っています。「夢中」と言えば、テレビゲームや携帯ゲームも子どもたちを虜にしています。しかし、自分の心と体をフルに動かしたり、何もない所から自分の発想で創りだすことからすれば、そこから得られる感動は比べものにならないでしょう。

たっぷりと時間があるとはいえ、1 泊では満足のいく完成にたどり着けなかった秘密基地づくりの子もいました。「あーぁもっとやりたかった」とこぼす子。イメージ通りに作れず焦る子もいました。この頃の子供向けのプログラムの中には、流れだけでなく、参加者すべてが失敗することなく確実に完成にたどりつけるように企画されたものも多いように感じます。しかし、やりきった感と同じく、このやり残した感も、自らが取り組んだ結果得られる感覚です。この経験が、きっと彼らの生きていく中で大切な要素となると私は思います。

たっぷりの時間、自分の心と体を使って遊べるTOECのキャンプ、ぜひまた会えるのを楽しみにしています。

自然スクールトエック　スタッフ　伊東昌志（ペーター）



「ムニュ ムニュして 気持ちいい!!」 泥んこプールで ひとやすみ



泥んこあそびの後 たき火であたたまる子どもたち。 初めて同志でも いつの間にか 会話がはずむ。



「いい香り～」 朝露をあびたこをつむ。

2日目昼食後、イスに座ったまま 眠る子もいました。 遊びつかれたねー。

「完成したよ!!」 ひみつ基地にて。



GC　一言メッセージ　貼付